



新型ゲーム・情報機器

今月上旬、人気ゲーム機の後継機が発売となり、そのニュースがテレビで流れていました。予約抽選に当選した人たちがワクワクを抑えきれないといった感じでインタビューに答えられていました。

その中に、あるお母さんが子どもたちのためにと購入しに来られてました。また、そのゲーム機を手にした子どもたちが大喜びする姿も映し出されていきました。

ゲーム機を買うのも、それで遊ぶのも、それは各家庭の自由です。しかし、職業柄そのような映像を見て、「うちの子がゲームにはまってしまい、どうしたらいいですか」というような相談を学校にされることにならないかなあ…と懸念してしまいました。

また、情報機器（スマホやタブレット）を子どもに与えることも同様です。20年近く前（学校にパソコンが導入された頃）情報機器に関する研修会に参加した時、「子どもたちがインターネットの世界に入るということは、無免許で自動車を運転するようなものだから、十分な指導が必要です」という主旨のことを言われたのを覚えています。当時ですらそのような危機感があったのですから、現在はなおさらでしょう。

便利だから、子どもが欲しいというから、〇〇のご褒美に…。情報端末を子どもに与える理由は様々かも知れませんが、しかし、利便性や楽しさと同時にその裏に潜む危険性を大人は理解しておかないといけないと思います。

特に子どもたちどうしのSNSトラブルは、全国的に増加の一途をたどっています。言葉によるコミュニケーションは、発達途中の小中学生では顔を合わせない文字だけのやり取りでコミュニケーションをとること自体ハードルが高いのです。また、情報端末を介した犯罪に巻き込まれることも珍しくなくなってきました。「不審者は町にではなく、インターネットにいる」とも言われています。

しかしながら、子どもたちが情報機器に全く触れない世界というのも考えづらいものになっています。学校では各教科や道徳科、日頃の生活指導等を通じ、「言葉の正しい使い方」「相手の気持ちを考える」「情報モラル」「調べ活動を通じたネットの正しい活用」などを行っています。このような学習が子どもたちの健全な情報機器活用につながるよう努めているところです。

あとひと月ほどで夏休みに入ります。お子様のゲームや情報機器の使い方については、保護者の皆様の管理監督を十分行っていただきますようお願いいたします。